



昭和20年(1945)三河地震で発生した宗徳寺の地割れ(蒲郡市)



津波により本尊の延命地藏尊が漂着したという言い伝えがある東漸寺(豊川市)



# 歴史地震記録に学ぶ 防災・減災ガイド 東三河編

先人たちが伝えようとしたことに、  
耳を傾けてみんかのお



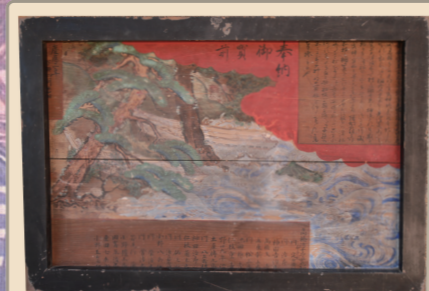
明治24年(1891)濃尾地震と翌年の暴風雨によって壊滅した新田を買取り、  
神野新田を開拓した神野金之助の頌徳碑と、新田堤防沿いに建立された護岸観音(豊橋市)



嘉永7年(1854)安政東海・南海地震による津波を契機に、貝やかきの殻を積み上げてつくられた津波除けの海岸堤防『かいがらぼた』(田原市)



宝永4年(1707)宝永地震、嘉永7年(1854)の安政東海・南海地震で石垣等の破壊の記録が残る吉田城(豊橋市)



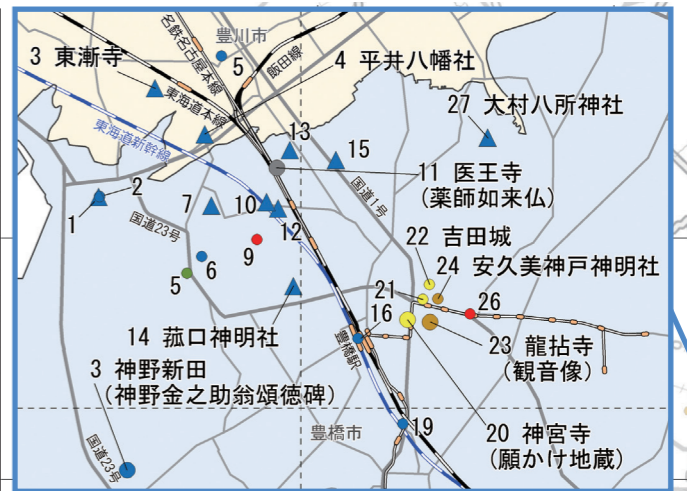
嘉永7年(1854)安政東海地震による津波の様子が描かれた御厨神社の絵馬(豊橋市)



※このパンフレットは、市町村誌や体験談集など地域に残る記録を参考にして作成したものです



No	豊橋市	碑史跡	エリア
1	前芝神明社		C6
2	前芝町付近		C6
3	神野新田*	○	C7
4	八柱神社(八王子大明神)	◎	C8
5	高須新田		C6
6	正行山専願寺		C6
7	川崎神明社		C6
8	吉祥院		C8
9	栄昌寺		C6
10	進雄神社		C6
11	医王寺(薬師如来仏)	◎	C6
12	歓喜寺		C6
13	日吉神社		C6
14	菰口神明社*		C6
15	満光寺		D6
16	花田町付近		D6
17	ささゆりの里(震災鎮めの石碑)*	◎	D8
18	法蔵寺(馬頭観音)*	◎	D8
19	潮音寺		D7
20	神宮寺(願かけ地藏)*	○	D6
21	時習館		D6
22	吉田城*		D6
23	龍拈寺(観音像)*	○	D6
24	安久美神戸神明社*		D6
25	菟頭神社(戸とうの宮様)*	○	D8
26	秋葉山常夜燈		D6
27	大村八所神社*		D6
28	御厨神社(絵馬)*	◎	D7
29	東漸寺(行者塔)	◎	D7
30	進雄社		D7
31	東観音寺*	◎	D7
32	正法寺		D7
33	小島神社		D7
34	大応寺		D7
35	二川の鳥居		D7
36	真月寺		D7



No	田原市	碑史跡	エリア
1	かいがらぼた*	◎	A9
2	常光寺*	◎	A8
3	堀切(西堀切村絵図)注	◎	A9
4	堀切付近		A8
5	薬樹山医王寺		A8
6	正福寺		A8
7	日吉神社		A8
8	田原市渥美郷土資料館	◎	A8
9	正念寺		A8
10	若宮八幡社*		B8
11	赤羽根小学校		B8
12	安楽寺		B8
13	西園寺		B8
14	高松八柱神社		B8
15	田原城*		C7

No	蒲郡市	碑史跡	エリア
1	形原神社*(わすれじの碑)	○	B6
2	大光院*(松島地藏菩薩)	◎	B6
3	宗徳寺*(三河地震による地割れ)	○	B6
4	形原北保育園		B6
5	御嶽神社*		B6
6	形原小学校(旧形原国民学校)		B6
7	白山神社		B6
8	金海山全保寺		B6
9	太田新田		B6
10	犬飼港		B6

※: 解説ページあり ○: 地震に関する碑・史跡  
注) 田原市渥美郷土資料館所蔵 ◎: 地震・津波に関する碑・史跡

凡例	
○	地震・津波関係
●	碑・史跡 被害記録ありのみあり
●	宝永4年(1707)宝永地震
●	嘉永7年(1854)安政東海・南海地震
●	明治24年(1891)濃尾地震
●	昭和19年(1944)昭和東南海地震
●	昭和20年(1945)三河地震
●	その他(年代不明を含む)
◇	遺跡調査時に確認された地震痕跡(砂浜・噴砂)
▽	(断層)
★	(地割れ)
▲	高潮・波浪関係



# 災害を今に伝える史跡など

## 新城市、設楽町、東栄町、豊根村

### 設楽町の被災状況

設楽町誌には、明治24年(1891)濃尾地震の際には、山から落石があったこと、昭和19年(1944)昭和東南海地震の際には、校庭に割れ目が生じるほどのすごさであったことが記載されています。濃尾地震の体験談では、「家が倒れたり、火災が起こったようなことはありませんでしたが家のなかでは生活で出来ず、戸外で稲刈りの済んだ田の中に、雨戸を置き、むしろを敷いて、その上で生活しました」とあり、家屋の被害があったことも想像されます。



### 新城市の被災状況

南設楽郡誌には、嘉永7年(1854)安政東海・南海地震の際に家屋の倒壊・山崩が多くあり、庭内に地震小屋を建てて数日間過ごしたことが記載されています。新城市誌には、この地震の際に、家屋が幾棟か倒壊したことが記載されています。明治24年(1891)濃尾地震の際の状況については、「塙壁・道路・垣・家屋等に若干の破損があった位」(南設楽郡誌)とあり、昭和20年(1945)三河地震の際の状況については、「器物が落ち、時計が止まる程度で損害はなかった」(長篠村誌)とあります。鳳来町で濃尾地震を体験した方の体験談(聞き取り)によると、「対岸の急峻な山の中腹より、大小の岩石ががらと音をたてて巴川に落下した」とあり落石も発生しています。過去の地震の際には、このような被害を受けていますが、被害は全体としては軽微であったようです。

### ● 清嶺小学校(旧清崎小学校) 地図 E3

所在地:北設楽郡設楽町清崎 清嶺小学校  
交通:JR 飯田線「大海」より北約 20km  
昭和19年(1944)昭和東南海地震では、清嶺小学校の新校舎前にあったプラタナスの根元に割れ目が生じるほどのすごさであったといひます。現在小学校は合併により、清嶺小学校と名を変えています。



### ● 島田陣屋遺跡 地図 D5

所在地:新城市野田字西郷  
交通:(現在は埋め戻され、見ることはできません)  
1992年9月~12月に発掘された遺跡です。戦国期から近世の遺構のほか、弥生時代の遺構が見つかっています。この遺跡からは、地震痕跡として、かなり古い時期の地震活動によると思われる噴砂が見つかっています。



### 豊根村の被災状況

宝永年間(1704~1710)の大地震では、畑を全滅させるほどの打撃を受けたことが、豊根村誌に記載されています。また、享保3年(1718)の大地震では、山崩れのため田畑に石砂が入り、作物が大被害を受け、飢饉となっています。村では、度重なる飢饉の教訓を生かして、食料の備蓄をするようになり、個人でも糲・野老(ところ)・ワラビ・ゼンマイ・イタドリ・ホドイモ・トチの実・クワの実・コゴミ・里芋のタツなどを(かます)・薫むしろを二つ折りにして作った袋)や俵に詰め天井裏に保存したようです。

### 東栄町の被災状況

東栄町誌には、次のような内容の記載があり、安政の大地震の際に、建物被害、川、道路の損壊があったことがわかります。「東園目にはこの大地震(嘉永7年(1854)安政東海・南海地震)により家屋敷の場所が崩れ落ちたため、下畑三畝を譲る旨の証文(東園目 森本齊蔵)が残り、尾目には小屋が損壊した旨の史料が残る。また、下栗代にはこの地震で被害のあった川筋や道路の修繕のために御役所から金二五両を借りた証文が残っているなど、資料により実質的な被害があったことが裏付けられる」

### ● 大徳寺 地図 E4

所在地:新城市富栄字大貝津  
交通:JR飯田線「三河大野」より南 約 800m  
鳳来町誌には、元和年間(1615-1624)に整備された本堂諸施設が、明治22年に大地震\*にあったことが記載されています。(\*: 周辺の市町村誌も参考にすると、明治24年の濃尾地震のことと思われる)

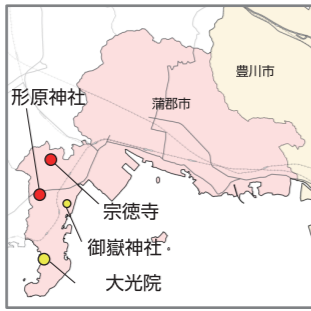


# 災害を今に伝える史跡など

## 蒲郡市

### 蒲郡市の被災状況

嘉永7年(1854)安政東海・南海地震では、建物の倒壊や、津波による流失がありました。また新田の堤防の決壊や流失がありました。昭和19年(1944)昭和東南海地震でも、建物の倒壊がありました。昭和20年(1945)三河地震では道路や田畑に亀裂を生じました。金平町では、1.5m の隆起を生じ、水田に断層・地割れができました(宗徳寺北側の雑木林の地割れは、市指定天然記念物として保存されています)。



### ● 形原神社(わすれじの碑) 地図 B6

所在地:蒲郡市形原  
交通:名鉄蒲郡線「形原」より北西 約1km  
三河地震記念事業により、形原地区に、慰霊碑が建立されました。この碑は、三河地震の大災害を受けて、33年目を記念して建てられたもので、「犠牲者の霊を慰め、且つまた後の世の戒めとしたい」という有志の願いが込められています。



### ● 御嶽神社 地図 B6

所在地:蒲郡市形原町御嶽  
交通:名鉄蒲郡線「形原」下車 すぐ  
「御嶽神社日誌」には、嘉永7年(1854)の安政東海地震では、神社の塙、石燈籠、周辺の家が崩れたこと、津波で家が流失したことが記載されています。また、32時間後に起きた安政南海地震では、西南の方向から大きく響いてきた雷のような音への恐怖から西蒲町の住民が小高く安全な場所に避難したことなどが記載されています。



### ● 宗徳寺(三河地震による地割れ) 地図 B6

所在地:蒲郡市一色町  
交通:JR東海道本線「三ヶ根」より南 約2km  
三河地震の際に、深溝断層に沿ってできた地割れです。蒲郡市の天然記念物に指定されています。天然記念物指定時には延長41mでした。隆起のため1.5m持ちあがってしまった番神堂は改修の上、現存しています。



### ● 大光院(松島地藏菩薩) 地図 B6

所在地:蒲郡市西浦  
交通:名鉄蒲郡線「西浦」より南 約3km  
「西蒲町の昔と今」には次のようなことが記載されています。嘉永7年(1854)の安政東海・南海地震による大津波で、松島に繁茂していた多くの松の木ともども、地藏菩薩も流失してしまいました。流失した地藏菩薩には、数々の霊験が物語られ、橋田地区の人々に厚く信仰されていました。その後、パラパラになっていた地藏菩薩の胴体が、地曳き網や打瀬網で拾われ、縁の元である大光院に移されました。この地藏菩薩は現在、大光院入口石段の下段の場所に鎮座されています。



# 災害を今に伝える史跡など

## 豊橋市



### 豊橋市の被災状況

豊橋市では、宝永4年(1707)宝永地震の際に、建物被害のほか、地震・津波による堤防の決壊、海水の浸入により荒地となりました。また明治24年(1891)濃尾地震と続く暴風雨によって堤防が崩壊しています。このほかに、豊川河口付近では、天文8年~天文9年(1539~1540)に大津波による被害を受けたとされています(地震に伴うものかどうかは不明。高潮の可能性あり)



### ● 神野新田(神野金之助翁頌徳碑) 地図 C7

所在地:豊橋市神野新田町  
交通:豊鉄バス「牟呂学校前」より南 約600m  
神野新田の前身は、旧長州藩重臣毛利祥久によって明治22年(1889)に干拓された毛利新田です。毛利新田は、約1100町歩(1町歩は、ほぼ1ヘクタールと同じ)という巨大干拓地でしたが、明治24年の濃尾地震、翌年秋の暴風雨によって、新田は壊滅し、干潟に戻ってしまいました。この土地を買い取ったのが八開村(現愛西市)出身の豪商神野金之助であり、長い年月と巨額の費用を投じて、遂に、神野新田開発に成功しました。その徳をたたえ昭和5年、神富神社境内に頌徳碑が建立されました。



### ● 龍拈寺(観音像) 地図 D6

所在地:豊橋市新吉町  
交通:豊橋鉄道市内線「札木」より東 約400m  
昭和19年(1944)昭和東南海地震によって犠牲となった豊橋高女23名と愛知美術高女4名の学徒を悼む観音像が昭和32年(1957)に建立されました。台座正面には「豊橋高等女学校動員学徒殉難之碑」と記されています。



### ▲ 大村八所神社 地図 D6

所在地:豊橋市大村町横走  
交通:JR飯田線「下地」より東 約3.5km  
神社由緒には、大宝元年(701)大村神社として創建されましたが、天文8年(1539)大津波により流失したことが記載されています(この天文年間の大津波は、高潮であると考えられます)。その後天文20年(1551)、八王子社として再興されています。



### ● 安久美神戸神明社 地図 D6

所在地:豊橋市八町通  
交通:豊橋鉄道市内線「豊橋公園前」下車 すぐ  
昭和19年(1944)昭和東南海地震の様子として、「社務所は東へ傾き、戸障子も所々外れ、壁土が大分落下」していたこと、「石燈籠は大半倒れて」いたこと、しかし、本殿や社殿には損傷がなかったことが、安久美神戸神明社千年誌に記載されています。



### ● 御厨神社(絵馬) 地図 D7

所在地:豊橋市西七根町  
交通:JR東海道本線「二川」より南 約5.5km  
御厨神社は、宝永4年(1707)宝永地震、嘉永7年(1854)安政東海地震の際に移転しています。絵馬は安政東海地震の惨状を伝えるもので、この時、舟が助かったことに感謝して、助かった舟の部材を絵馬にして奉納したものです。



### ● 神宮寺(願かけ地藏) 地図 D6

所在地:豊橋市魚町神宮寺  
交通:豊橋鉄道市内線「札木」より南 約150m  
嘉永7年(1854)安政東海地震の際、神宮寺の地藏菩薩が幼女の身代わりとなって命を救ったという話から、信仰を集めるようになりました。このため、願かけ地藏ともよばれています。



### ● 東観音寺 地図 D7

所在地:豊橋市小松原町  
交通:JR東海道本線「二川」より南 約5km  
宝永4年(1707)宝永地震の大津波により被害を受け、現在地に移転したとの記録が残っています。津波前後の絵図や石碑も残されています。



### ▲ 菰口神明社 地図 C6

所在地:豊橋市菰口町  
交通:JR飯田線「船町」より南西 約900m  
豊川河口付近では津波をはじめ、高潮による災害が多く発生しています。この神明社は天文9年(1540)の津波によって、石巻町まで流出したと伝えられています。



### ● 吉田城 地図 D6

所在地:豊橋市今橋町  
交通:豊橋鉄道市内線「豊橋公園前」より北 約200m  
現在の本丸のもと鉄櫓(くろがねやぐら)址に造られている復興櫓の直下西側の石垣(高さ14m、長さ38m)以外の石垣は、宝永4年(1707)宝永地震、嘉永7年(1854)安政東海・南海地震によって、ことごとく破壊されました。



### ● 菟頭神社(戸とうの宮様) 地図 D8

所在地:豊橋市高塚町字西方  
交通:豊橋鉄道「大清水」より南東 約5km  
「高豊史」によれば、菟頭神社の「戸とうの宮様」が宝永4年(1707)宝永地震によって崩れ落ちてしまう被害にあったとされています。



### ● ささゆりの里(震災鎮めの石碑) 地図 D8

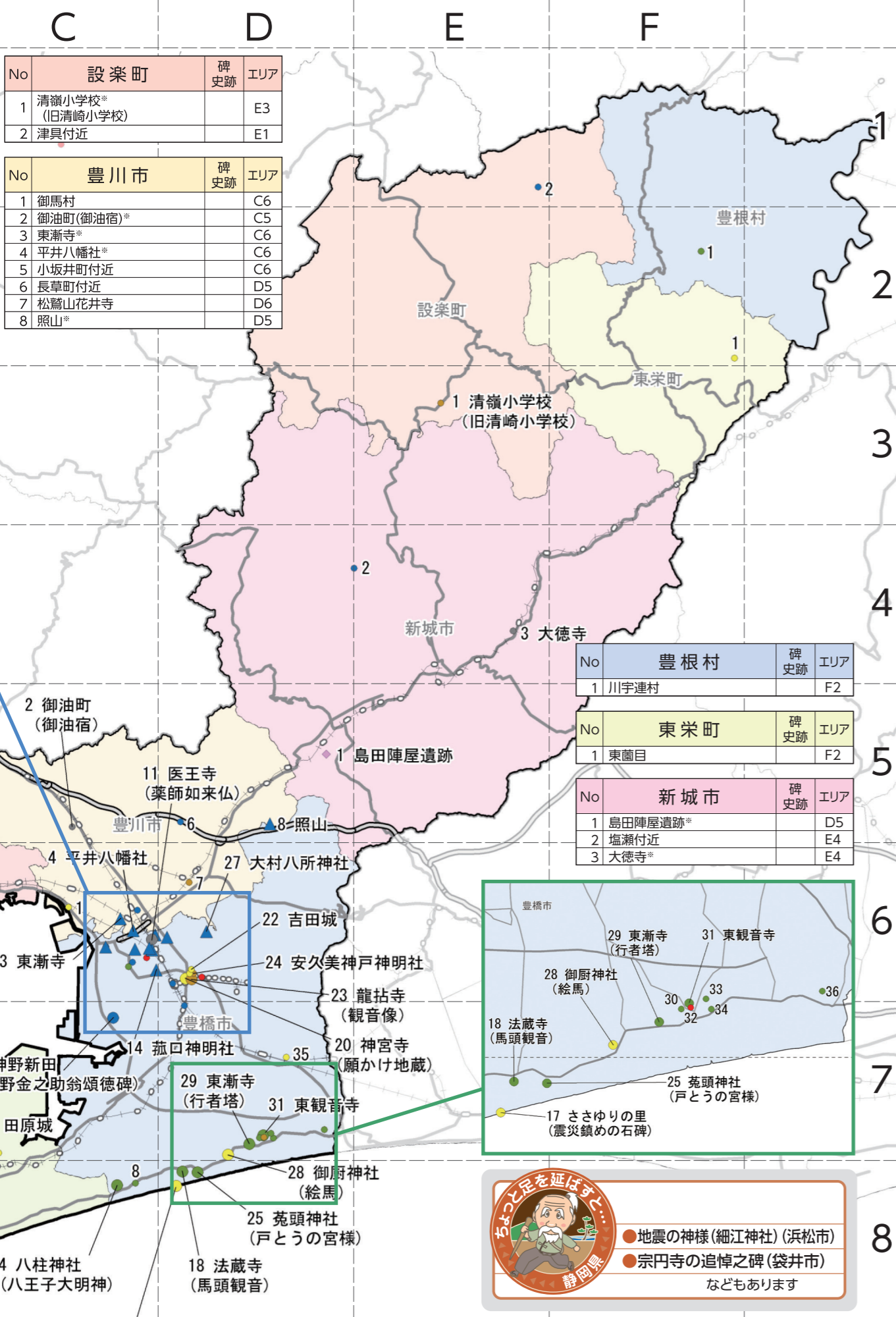
所在地:豊橋市伊古部町字南椎ノ木谷  
交通:豊橋鉄道「大清水」より南東 約5km  
案内板には、「この石碑は、安政6年に網元の仙太郎さんが震災が二度と起きないことを願って建てました。」と記されており、また嘉永7年(1854)安政東海・南海地震の言い伝えによれば「大津波を伴っており、推定29mの高台まで海水が上がった」と記されています。



### ● 法蔵寺(馬頭観音) 地図 D8

所在地:豊橋市伊古部町  
交通:豊橋鉄道「大清水」より南東 約5.5km  
法蔵寺は海岸侵食や宝永4年(1707)宝永地震の津波などにより、何度か移転したといわれています。なお馬頭観音は、津波による村の移転によって置き去りにされていたものを、寺に納めたものといわれています。





## 災害を今に伝える史跡など

※この地図は、主に市町村誌や体験談等を参考に、地震に関する碑・史跡や、被害記録がある地点をプロットしたものです。

ちよっぴ足を延ばすと... 静岡県

- 地震の様様(細江神社)(浜松市)
- 宗円寺の追悼之碑(袋井市)

などもあります

### こんな言い伝えもあります

#### ◆渥美町史によると...

天長4年(827)、この地方に大地震が起こり、越津の海岸は大陥没した。美しく湾曲していた磯岩も、賑やかだった家並も半分以上海底に沈んでしまった。危く難を免れた人々は北へ避難し、地名も現在の小塩津と改めたと伝えられています。なお、正福寺や日吉神社もまたこのころ現在地へ移ったといわれています。

先人の声を聞き活かしていくことが大切なじゃ



げんさい 減斎さん  
昔の地震のことを、とても詳しく知っているおじいさん。

### ちよっぴいい話

三河地震の際に、形原町で医師をされていた方の震災体験記より(抜粋)

「その夜、私たちは子供を一名ずつ背負って手を取り合って妻と二人で暗闇をほうようにして、裏畑へ避難した。すると次から次へと倒れてゆく家屋の不気味な音、その間から泣きさけぶ声、助けを求める声、親をさがす声、子をさがす親の声、明けはじめた暁の闇を通じて右往左往する人々の姿は全く地獄絵図であった。つぎの瞬間私は医師として、じっと避難していることもできず、看護婦にあるだけの衛生材料と外傷薬、注射などを持たせ、なお揺れている町に飛び出し、倒れている家に肝をつぶしながら、私は夢中で多くの負傷者に応急手当をして廻った。…重傷、要手術者、軽傷とわけて学校の教室を臨時治療室として軽傷者を治し、重傷者は蒲郡、豊橋、岡崎の病院へ輸送したものである。…」

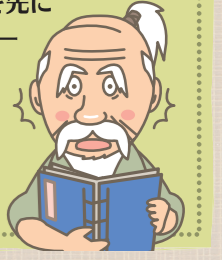


ゆらすん

## 三河地震の際の震災体験記から

三河地震の際に、形原町で被災された方(当時40歳)の震災体験記より

…一月十三日午前三時すぎ頃、どどっとものすごい音で飛び起きた。「地震だッ」私たち夫婦と子供三人、一部屋に寝ていた。「出るんだ」と叫んだが、余りの揺れ方に立つにも立てず這うことさえ出来ない。蒲団の上にはみついたまま、「これで死ぬのか」と思った瞬間少々揺れ止んだ。このときとばかりに長男を先に立て、下の二人は一人ずつ抱えて飛び出した。…「助かったッ」と一息つく間にまた揺れ出した。…本家はどうかと闇にすかしてみると、あるべき大きな家がない。つぶれた家の中より「助けてッ」の母親の声。気ばかりあせれど、灯りもなく、道具一つなしではどうすることもできぬ。近づいて叫んで励ますだけが精一杯…。



### 防災・減災のための 一口メモ

- 地域の被災傾向を知って、地震に備えましょう。
- 地域の地名の由来を知って、災害危険箇所を掴んでおきましょう。
- 先人の声(警鐘)に耳を傾けて、過去の地震の教訓を防災・減災行動に生かしましょう。
- 地震後の大雨、洪水、高潮などによって、複合災害が起きています。地震以外の災害にも注意しましょう。
- 現代の有益なサービス(緊急地震速報、地域のメールサービスなど)を利用して、落ち着いて行動しましょう。
- 地震の際の危険な箇所を知って、避難行動に生かしましょう。
- 被災時には、まずは自分の身は自分で守りましょう。被災後は地域の方々と協力しましょう。

### 関連情報

- 東三河地域防災協議会では、東三河地域沿岸域(豊橋市、豊川市、蒲郡市、田原市)を対象として、津波の歴史やその被害を受けた地区等について整理し、パンフレット「**愛知県東三河地域における地震による津波の歴史**」を作成・公開しています。  
<http://www.city.toyohashi.aichi.jp/bousai/tsunamirekisi.html>
- 地震の際の体験談がまとめられています。「**地震体験記録集—関東大震災・東南海地震・三河地震—**」(愛知県)「**東南海地震 三河地震 体験談集—大地震に備えて—**」(西尾市)「**わすれじの記 —三河地震による形原の被災記録—**」(三河地震記念事業奉賛会)など(愛知県図書館、蒲郡市立図書館などでご覧になれます)
- 愛知県では、県民の皆さまがインターネット上で簡単に大地震の際の自宅(木造)の様子の映像を観たり、地域の防災情報等を得たりすることができる「**防災学習システム**」を公開しています。  
<http://www.quake-learning.pref.aichi.jp>

### この資料について

この資料は、「地域に残る地震の記録」などを知っていただき、地震をより身近に感じていただくことを通じて、県民の皆さまが防災・減災を考えていただくきっかけになれば、との思いから作成されたものです。この資料を作成するにあたり、下記の方々のほか多くの方々のご協力・ご助言をいただきました。記して感謝の意を表します。

〈作成協力〉 | 歴史地震記録に学ぶ防災・減災ガイド委員会 委員長:武村 雅之 委員:加藤 規博 隈本 邦彦 栗田 暢之 近藤 ひろ子 佐藤 克彦 (敬称略) 鈴木 康弘 都築 充雄 服部 俊之 廣井 悠 福和 伸夫 溝口 常俊 護 雅史 山中 佳子(50音順で記載)

### 歴史地震記録に関する情報を探しています。

この地域の過去の地震・津波に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などを探しています。ご存知の情報を下記までお知らせください。

